

ジャコウアゲハを用いた 生物多様性の環境学習プログラム開発

～子どもたちに生物多様性をどう伝えるか～

自然・環境科学研究所 教授 ^{さとひろし} 佐藤裕司

環境人間学研究科 共生博物部門 M2 ^{かわむらさちこ} ©河村幸子

キーワード

ジャコウアゲハ, 生物多様性, 環境学習プログラム,
外来種問題, 関係性学習, 統合的学習

研究概要

本研究は、比較的飼育の容易なジャコウアゲハを用いて、子どもたちに生物多様性の理解を促すための環境学習プログラムを開発し、そのプログラムの有効性を明らかにすることを目的としています。研究は、学習素材となるジャコウアゲハ（在来種）とホソオチョウ（外来種）、および両者の食草であるウマノスズクサの分布・生態調査、そして環境学習プログラム開発とその授業実践から構成されます。

学習プログラム開発では、生物多様性の本質である「生き物のつながり」に焦点を絞り、子どもたちにその関係性の大切さの理解を促す内容としています。ジャコウアゲハは害虫ではなく、多化性で4月から11月まで観察可能、産卵行動も容易に観察でき、外来種であるホソオチョウ等、他の生き物や人とのつながりが多いことから、生物多様性の学習に適しています（図1）。

身近にいるジャコウアゲハから命の大切さや、生き物と人と自然とのつながりを学ぶ中で、コミュニケーション力や問題の本質を見抜く力、そして、生物多様性保全のための自ら行動する力を培う環境学習プログラムとして、有効であることを実証していきます。

アピールポイント

ジャコウアゲハは名前の通り、麝香（じゃこう）の香りがします。麝香の香りは長持ちすることから、香水の材料にも使われていました。また、食草のウマノスズクサもかつては薬草として使われていましたが、含有するアリストロキア酸に腎毒性があることから今は使用されていません。一方、ジャコウアゲハの蛹は「お菊虫」と呼ばれ、怪談話とも関連づけられます。このように、ジャコウアゲハは人との関わりの中で生物多様性の学習を進めることができます。飼育も比較的容易なので、学校ビオトープだけでなく、企業ビオトープの構成生物としても最適です。

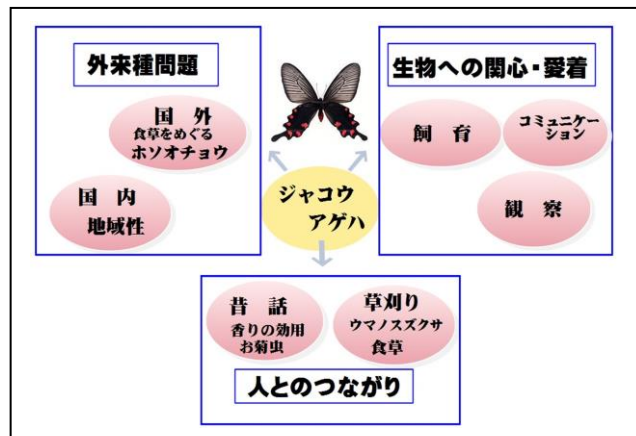


図1 ジャコウアゲハの関係性の構図